

★戦時中の学校はどんな様子だったの？ すがたを消した楠公(なんこう)さん

馬にのっている銅像は、楠木正成(くすのき まさしげ)という人です。地元の人は、尊敬(そんけい)と親しみをこめて、「楠公さん」とよんでいます。この銅像は、昭和13年に地元の人の寄付によって建てられました。1枚目の写真は伊佐具神社の神主さんです。おひろめの式には数百人の人々が集まるなど、かがやかしい限りです。これほどまでに尊敬されているのは、楠木正成が天皇家に味方して、活躍(かつやく)した英雄(えいゆう)だからです。正成は、湊川(みなとがわ)の戦い(今の神戸市中央区)でも大活躍するなど、兵庫県にも関係が深い人物です。



ちなみ兵庫県の県樹(県のシンボルの木)は、「クスノキ(楠)」という木です。そんな楠公さんの銅像も、昭和19年に戦争の武器の材料として、国に供出(差し出すこと)しなければならなくなりました。銅像を溶かして武器に生まれ変わらせるのです。みんなの願いがこめられた楠公さんの銅像がなくなる…いくらお国のためとはいえ、さぞかし残念無念だったことでしょう。

